

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成28年〇月〇日 (〇) 〇校時

対 象 第6学年〇組 〇名

学校名 〇〇立〇〇小学校

会 場 教室

1 単元名

大好きな〇〇小をもっとすてきにするために自分の考えを伝えよう

教材名 説得力のある意見 (小学生の国語6年 三省堂)

2 単元の目標

伝える相手や目的に応じて、必要な事柄を整理し、学校生活をよりよくするための自分の考えを明らかにして文章を書くことができる。

3 単元の評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 言語に関する知識・理解・技能
単元の評価規準	①考えを表現するために、取材したり話し合ったりして自分の考えを明らかにしようとしている。 ②相手や目的を考えながら自分の考えを伝えるために必要な事柄を整理して書こうとしている。	①自分の考えを表現するために必要な事柄を整理して書いている。 ②相手や目的に応じて自分の考えを明らかにして書いている。	①効果的な表現になるように、語句の違いに気付き辞書で調べている。

4 指導観

(1) 単元観

高学年として委員会活動やクラブ活動など学校全体に関わる活動を行ってきた。卒業を控えた学校生活のまとめの時期に、学校生活について振り返り、〇〇小のよさを引き継いでいってほしいという思いや、よりよくしていってほしいという思いが高まっている。

そこで、よりよい学校生活にするための自分の考えを文章にして伝えることをねらった本単元を設定した。本単元で伝える相手や目的に応じて、必要な事柄を整理して文章にする力を身に付けさせたい。

また、児童が学校生活をよりよくするための工夫について、自分なりの考えをもち、それを相手に応じて分かりやすく伝える書き方の工夫を考えることにより、文章で相手に伝わるよさを実感し、書くことの達成感を味わうことができると考える。

(2) 教材観

高学年になり社会性が芽生え、世の中の出来事に興味・関心をもつようになってきている。しかし日常生活から浮かんできた思いや感じたこと、考えをそのまま書いても、相手にとって説得力があるとはかぎらない。考えの根拠となる出来事や情報は何なのかということを示し、書いて伝えたいことを確かなものにしていく必要がある。本教材では、それぞれの考えを大切にしながら、「説得力のある意見」としていくための過程を重視した指導をしていきたい。

5 年間指導計画における位置付け (B 書くこと)

時期	教材名	学習活動
6月	自由な発想で～随筆～	場面の様子と自分の思いや考えとを書き分けながら、記述を工夫して随筆を書く。
9月	お札にしたいあの人物	必要な情報を関連付けながら構成を考え、理由を明らかにして意見を書く。
12月	よさを伝える広告	目的や意図に合った事柄を選び出して整理し、表現方法を工夫して書いたものを発表し合う。
1月	短歌を作る	表現の仕方を工夫して、自分の感動や考えたことが伝わるように短歌を作る。
2月	説得力のある意見	自分の意見の中心を明確にし、説得力をもつよう事実の取り上げ方や構成を工夫して書く。

6 単元の指導計画と評価計画 (全9時間扱い)

時	○ねらい	学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)
1 (目的)	○身の回りの出来事に関心をもち、例文を読んで意見をもつことを知り、学習の見通しをもつ。	①新聞の投書文や新聞記事を読んだりそこで考えたことを作文に書いたりした経験を振り返る。 ②身の回りの出来事から自分の意見をもつことを確認する。 ③「○○小をもっとすてきにするために」という学習の目的を知る。 ④学習の見通しをもち学習計画を立てる。	アー① 自分たちの生活をよりよくすることに興味をもち、学習の見通しをもっている。 (観察・ワークシートの記述)
大好きな○○小をもっとすてきにするために自分の考えを伝えよう			

2 (課題設定)	○関心のある事柄について誰に何を伝えたいかを定める。	①考えてきた身の回りの問題点やそれについての考えを交流する。 ②自分が伝えたい考えをマッピング法で明らかにする。 ③知りたい考えと伝えたい相手を決める。 ④考えに説得力をもたせるための事例の集め方を知る。	イー① 自分の考えを明らかにするためにマッピング法でワークシートに自分の提案を書き、伝えたい内容と相手を決めている。 (観察・ワークシートの記述)
3 (取材)	○自分の考えの根拠となる事例や経験や数値を集める。	①根拠の種類を知る。 ②アンケート、数値、資料、経験、聞いたことなどから取材する方法を知る。 ③取材をする。	イー① 経験やアンケート結果など考えの根拠となる情報をワークシートに書いている。 (ワークシートの取材記録)
4 (取材)	○取材した事例の中から自分の考えがより明らかになるものを選ぶ。	①友達と自分のここまで取材した事例を読み合ったり説明し合ったりする。 ②取材した事例に対して、共感した意見、同感でも他の解釈の意見、全く反対の意見などを交流する。 ③自分の考えを見直し、より明らかになる事例や解釈を考える。	イー① 友達との交流を通して自分の考えや事例をまとめワークシートに書いている。 (ワークシートの取材記録)
5 (構成)	○友達との交流を通して自分の考えが明確な文章になるように構成する。	①取材したものの中から自分の考えに説得力を増す事例を決定する。 ②選んだ事例と自分の意見を伝え合い、考えがはっきりと伝わっているか、話し合う。 ③考えと事例の区別に注意して自分に県が明確な文章構成をする。 ④文章構成したものを読み返して次時に書く文章を想定する。	イー① 友達との交流を通して考えが明確になるように文章の構成をしている。 (構成シートの文章の構成)
6 (記述) 本時	○例文から書き方のよさを見付け、それを活用しながら構成シートを基に「○○小をもっとすてきにするために」の説得力のある文章を書く。	①モデル文を読み、構成や表現の方法を確認する。 ②構成シートを基に、自分の考えと事例を区別しながら文章を書く。 ③書いた文章を読み返し、理解しやすい説得力のある文章になっているかどうか確かめる。	イー② 構成シートを基に、事例と自分の意見を区別しながら説得力のある文章を書き始めている。 (書いた文章) ウー① 相手に応じた表現や言語に気を付けて書いている。(書いた文章)

7 (記述・推敲)	○構成シートを基に「○○小をもっとすてきにするために」の説得力のある文章を書く。	①構成シートを基に、自分の考えと事例を区別しながら文章を書く。 ②書いた文章を読み返し、理解しやすい説得力のある文章になっているかどうか確かめる。	イー② 書き方のよさを活用しながら、構成シートを基に、意見と事例を区別して説得力のある文章を書いている。 (書いた文章) ウー① 相手に応じた表現や言語に気を付けて書いている。(書いた文章)
8 (推敲)	○「○○小をもっとすてきにするために」の文章を推敲し、清書する。	①完成した作品を読み合い、相手に応じた表現や言語に気を付けて推敲する。 ②相手を意識して丁寧に清書する。	ウー① 相手に応じた表現や言語に気を付けて書いている。 (書いた文章)
9 (交流)	○意見文を友達と読み合い、よりよい意見文になるようにする。	①友達と意見文を読み合う。 ②よりよい意見文になるように助言し合う。	アー② 友達の助言を基に意見文を読み直し、相手に自分の意見が伝わるか考えている。 (観察・書いた意見文)

7 指導に当たって

児童が主体的に学ぶことができるように、また、書く力を付けられるように以下の点を工夫した。

(1) 考えをもたせる工夫

一人一人が考えをもてるよう、学校内での活動からそれぞれが経験したことを題材にできるようにした。また、読んでもらう相手を誰にするか自分で決めさせ、相手意識をもって書くことができるようにした。目的と相手をはっきりすることで書く必然性が増し、児童全員が自分の考えをもつことができる。

(2) 記述でのつまずきをなくす工夫

4つのモデル文を活用し、学習の見通しがもてるようにした。また、記述する前に書き出しや接続語などモデル文を活用して文の書き方について話し合い、記述に活用できるようにした。これにより記述へのつまずきが解消される。

(3) 評価の工夫

毎時間、前時に児童が書き込んだワークシートを紹介し、友達のよさを取り入れることや、自分の文についても振り返り、自己評価できるようにしたい。

8 本時の指導（全9時間中の第6時間目）

(1) 本時の目標

例文から書き方のよさを見付け、それを活用しながら構成シートを基に「○○小をもっとすてきにするために」の説得力のある文章を書く。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	・指導上の留意点	学習活動に即した評価規準(評価方法)
導入 (3分)	1 本時の学習の見通しをもつ。	・学習計画や前時までの学習内容を自分で振り返らせ、主体的に学習に取り組む意識をもたせる。	
	モデルから書き方のよさを見つけ、説得力のある文章を書こう		
展開 (2, ①7分 ②10分)	2 モデル文を参考に書き方について話し合う。 ①自分でモデル文を読み返し、 (1)書き出し (2)段落のつなげかた (3)まとめの書き方のよさを見つける。 ②全体でモデル文の書き方のよさについて話し合う。	・書き出し、段落の始まり、まとめについての書き方のよさを見付けるよう助言する。 ・文章の内容ではなく書き方に着目するよう助言する。 ・板書掲示を用意し、視覚的に理解できるようにする。	
3, 10分 4, 5分)	3 構成シートと書き方のコツのワークシートを活用し、文章を書く。 4 書いたところを見直しチェックシートを活用しながら推敲する。	・構成シートを活用するよう助言する。(個別支援) ・モデル文から見付けた書き方のよさを活用するよう助言する。(個別支援) ・書き始められない児童にはヒントカードを用意しておく。 ・全体的に書く手が止まってしまっている場合は途中で指導する。(一斉指導) ・言葉の間違いや文末表現、原稿用紙の使い方を中心に見直せるようにする。	イー② 構成シートを基に、事例と自分の意見を区別しながら説得力のある文章を書き始めている。 (書いた文章) ウー① 相手に応じた表現や言語に気を付けて書いている。 (書いた文章)

まとめ(10分)	5 学習を振り返り、学習感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を活用して書き方を工夫した児童の作品を発表させ、よい点を振り返るようにする。 ・学習してできるようになったこと、分かったことについて書くよう助言する。 	
----------	--------------------	---	--

(3) 板書計画

モデル文③

まとめ

文のつなげ方

書き出し

モデル文②

まとめ

文のつなげ方

書き出し

モデル文①

まとめ

文のつなげ方

書き出し

大好きな○○小をもっとすてきにするために
自分の考えを伝えよう

モデル文から書き方のよさを見付け、文章を書こう